

小中学生と大人のアンケート調査におけるデータの取り方の違いについて

第2回審議会において、千代田委員よりご質問いただいた標記の件につきまして、審議会においては、会議録に記載された内容でお答えいたしましたが、質問の意図と事務局の回答内容に齟齬がありましたので、改めてご説明いたします。

千代田委員の質問をまとめると、下記のとおりです。

「小中学生は全体で5,600人ぐらいおり、それに対して今回配布した数は1,232人で、割合でいうと22%となる。一方、大人は全体で70,000ぐらいとすると、今回回収した数は1,245人で、割合でいうと1.9%となる。この割合の差(22%と1.9%)について、集計結果に影響するとは思わないが、少し気になっている。」

まず大人のアンケート調査票配布数ですが、有効なサンプル数を算出するにあたり統計学を用いた計算式を使用しています。計算を行ったところ、母集団(20歳以上)の人数65,160人を調査するのに必要なサンプル数は、1,050人でした。これにより、見込み回収率を40%とした場合のアンケート配付必要数が2,625通となります。

今回はこの数字を上回る(3,000通)ように設定しておりますので、情報の精度については担保されております。

小中学生についても、上記同様に必要なサンプル数を計算したところ、899人でした。これにより、見込み回収率を90%とした場合のアンケート配付必要数が998通となります。

このため、今回は対象を学年全体に広げ、1,000通以上となる(1,232通)ように設定し、情報の精度について担保されるようにいたしました。

小中学生と大人のアンケート調査におけるデータの取り方について、母集団に対する配布数の割合には差がありますが、いずれも上述のとおり、情報精度が担保されるように設定しております。

以上となります。